

地域の高齢の農家などから農地を積極的に引き受けて、農業生産の規模を拡大するとともに、ノウフクJASの認証を初めて受けた事業者として、農福連携の認知度向上や販路拡大にも貢献。

基本情報

- 所在地：長野県松川町
- 団体名：株式会社ウィズファーム
- 選定表彰：ノウフクアワード2020審査員特別賞「未来を耕すの部」、OMOTENASHI Selection(2021年度)、OMOTENASHI Selection(2022年度)
- 主力商品：果樹（りんご、ぶどう、桃）、にんにく、リンゴ加工品 etc.
- 取得認証等：認定農業者、ノウフクJAS



ノウフクリんご



りんごジュース

取組の概要

- 障害者就労施設を運営する中で、障害者の工賃向上や新たな就労先として農業法人を設立。地域や高齢農家等から積極的に農地を借り入れ約206aの農地でりんご、にんにく等を生産。
- 各地のイベントやマルシェで自社農産物をPRするほか、大手リゾートホテルやスーパーとの直接取引を実現。
- 就農前に運営に関わっていた就労継続支援A型事業所・B型事業所及び、令和5年に自社で新たに設立した就労継続支援B型事業所の精神障害者、知的障害者及び身体障害者も農作業に従事。
- 工賃向上や販路開拓、農福連携のPRを目的に、令和元年11月に全国初の「ノウフクJAS」の認証を取得。

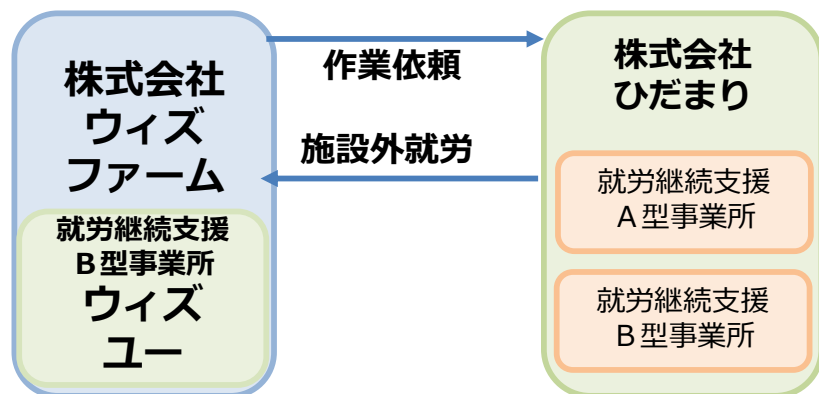


りんご園での作業



農福マルシェ

体制図



取組の成果

- 農作業を細分化して手作業を増やすことで、障害者がストレングスを活かした作業に従事できるため、継続して作業を行えるようになった。また、多くの障害者を受入れることが可能になった。
H29年度 5名 → R4年度 16名
- 長野県の平均工賃月額（16,930円）を上回る工賃（30,074円）を実現。
- 「ノウフクJAS」の取得により、取引先が拡大。

所在地▶長野県下伊那郡松川町上片桐2164-1

連絡先▶TEL:070-4398-1237 E-mail : hara3005@gmail.com

ウェブサイト▶<https://withfarm.amebaownd.com>

【取組のプロセス】

障害者の低工賃
荒廃農地の増加
地域活力の低下

平成23年

きっかけ

就労継続支援A型・B型事業所の運営に携わる中で、工賃の向上やブランドの構築、新たな就労先の確保を目的に地域の特産品であるリンゴの栽培を検討

株式会社ウィズファームの設立

- 農福連携の推進に当たって、長野県や松川町から農業法人の設立を進められ、平成29年2月に、株式会社ウィズファームを設立し、高齢のため離農する農業者から、約40aを借り受けりんご栽培を開始。



りんご園

平成29年

通常の栽培方法は、障害者が農作業を行うのに向いていない

障害者が作業しやすい環境の構築

- りんごの木は低く仕立て、にんにくは畝間を広くすることで、障害者が農作業しやすい環境を整備。



にんにく畑

令和4年

販路が少ない
農福連携の知名度が低い

販路拡大の取組（ノウフクJASの取得、インターネットの利用）

- 農作業に従事する障害者のやりがい、工賃及び知名度の向上のため、令和元年11月に、ノウフクJASの認証を取得。
- インターネットを利用し、農福産品の通信販売を行うとともに、YouTubeやメールマガジンで農福連携をPR。

（耕作面積：平成29年40a →令和5年 206a、就労する障害者の人数：平成29年5名 → 令和5年16名、令和5年度平均工賃月額：30,074円）



ノウフクJAS取得

令和5年

就労継続支援B型事業所・指定特定相談支援事業所の開設

- 農福連携の更なる発展のために、令和5年4月に就労継続支援B型事業所ウィズユーを、令和5年11月に指定特定相談支援事業所ウィズユーを開設。

今後の
展望

地域の担い手農業者として規模拡大

- 今後、地域の高齢農業者の離農等の増加することから、担い手としてそれらの農家から農地を借り受け規模を拡大を進め、地域農業の活性化の一翼を担いたい。



YouTubeチャンネル開設



高齢・過疎化が進行し、急速に荒廃林や荒廃農地が増加する地域で、農福連携により障害の有無にかかわらず、皆が活躍できる「持続可能な農山村地域づくり」を目指す。

基本情報

- 所在地：奈良県奈良市
- 団体名：社会福祉法人青葉仁会
- 選定表彰：
 - ノウフク・アワード2020審査員特別賞（地域を耕す）
 - 米・食味分析鑑定コンクール2018国際大会
 - プレミアムライセンスグッドファーマー（主催：米・食味鑑定士協会）
 - 令和5年度 循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰
- 主力商品：
 - （農作物） 水稻、さつまいも、ブルーベリー、タマネギ
 - （加工品） 干し芋、レトルト・冷凍食品、菓子等
- 取得認証等：－

取組の概要

- 荒廃農地となった各地域の広大な農地で米、さつまいも、玉ねぎ、じゃがいもや夏野菜、冬野菜を20種類以上、ブルーベリーや栗など果樹を栽培。最盛期には収穫祭を開催、県内外から大勢の来客がある。
- 収穫した農産物は、法人内のカフェ・レストランの食材として、加工部門の事業所では、ブルーベリージャム、カレー、バジルペースト、干し芋、惣菜などで活用され、いずれも障害者が主力として働く。
- また、企業のOEM受託、スーパーや物産店等、全国へ農産物や加工品を出荷しているほか、地元生鮮野菜加工企業と連携し、廃棄予定の野菜の端材を引き受け、商品に加工し、またそれらの生産品を小売企業と連携し、販売活動を活性化するなど、フードロスの削減に対する事業を行っている。
- その他、観光農園の運営、廃校の活用など、多角的に事業を展開。



稲刈りを皆で協力



ブルーベリー収穫祭



レストランでのホール業務

体制図

社会福祉法人
青葉仁会

あおはにかいの家 萌あおはにかい
（施設入所・生活介護・就労継続B）

あおはにかいファーム・あおはにかい自然学校
（農産物の生産・ブルーベリー園・観光農園）

水間ワークス（飲食店・乾燥加工）RIKUGOの森（レトルト・冷凍製品製造）ポラーノ広場（飲食店、パン製造）生駒事業所（飲食店、菓子製造）満天ひろば（飲食店、石鹸・縫製製造）デリカッセンイーハートヴ（飲食店、給食製造）日笠ワークス（飲食店、紙漉き製造）

取組の成果

- 農産物の売上は、625万円（H30）から1,358万円（R4）へ増加。
- 食品加工の環境を活かした就業訓練で、40名を超える利用者が一般企業に就職。
- ノウフク関連業務にあたる障害者（継続支援・生活介護・就労移行・雇用含む）の人数は427名になり、約5,660万/令和4年度の工賃・賃金を支払う。

所在地 ▶ 奈良県奈良市杣ノ川町50-1

連絡先 ▶ TEL：0742-81-0420 E-mail：info@aohani.com

ウェブサイト ▶ <https://aohani.org/>

【取組のプロセス】

昭和55年

当時障害児には、学校卒業後の選択肢は少なく、長年在宅で親兄弟の世話を受け続ける現状

平成4年

奈良市東部地域での事業展開を実施。杣の川ワークス、水間ワークス、日笠ワークス設立

平成14年

奈良県北西部に事業展開。デリカテッセンイーハトーヴ、ボラーノ広場、生駒事業所を開設

平成22年

農山漁村振興交付金事業の活用

米は10t、さつまいも12t、ブルーベリー10t、玉ねぎ5tなど、各種野菜も20種類以上栽培

今後の展望

きっかけ

義務教育卒業後の生徒たちの行き場が、社会全体で整備されていないことに大きな問題を感じたことから社会福祉法人を設立

社会福祉法人青葉仁会の設立

- 知的障害者入所授産施設あおはにの家を開設。
- 障害者の作業を行うための施設を開設するほかワークショップ等の活動も開始。

第2入所施設 萌あおはにを開所

- 生産活動を通じて社会参加を促し、自立支援と工賃を保障するため、様々な生産活動を開始。農業部門は「自然学校班」として養蜂やさつまいも栽培を担当。
- また、地域は高齢・過疎化が進行し、急速に荒廃林や荒廃農地が増加する中、障害のある人たちが担い手となって「持続可能な農山村地域づくり」を目指す。

農業生産、食品加工を強化

- 農福連携を通じた地域の再生を目的として、さらなる生産拡大のため農業に専従する「あおはにファーム」を新設。さつまいも、米等の生産拡大を行う。荒廃した茶畑を開墾してブルーベリー園へ再生し、摘み取りを楽しめる農場では、「自然学校班」に所属する障害者が主体となって運営し、年間を通じて就労できる作業を確保。
- あおはにファームで栽培した野菜を使用した冷凍食品、レトルト食品、菓子を法人内5事業所で分担して実施。加工工程でも多くの障害者が活躍する。
- 法人内7か所の飲食店であおはにファームの野菜を活用したメニューを提供。
- 他法人と連携した事業で、ひとり親家庭への食材提供や子ども食堂利用者の収穫体験ツアーなどを実施。ビニールハウスの設置により通年安定した食料が供給できる。

地域全体を支える法人に

- 農業衰退の進む中山間地域で、障害のある人たちが主体となったマルシェ、レストラン、農産物販売、農業体験、農家生活体験の場を提供することで、地域全体の更なる集客増加を目指し、地域の人が集まれる場所、地域文化と農福連携を実現したい。
- 荒廃農地や就農者の減少を食い止め、地域の食料供給のセーフティーネットとして機能することに加え、障害の有無に関係なく多くの人たちが活躍し、社会全体を支える仕組みを実現する。



施設の送迎車



農作業の様子



自家栽培さつまいもの干し芋



農山漁村振興交付金を活用したビニールハウス